

令和3年度 国立諫早青少年自然の家 教育事業

## 自然体験活動指導者 (NEAL リーダー) 養成研修

令和3年12月26日(日)～28日(火)

【担当：園部 翔、東島 憲之】



### 1. 事業の背景

独立行政法人国立青少年教育振興機構が提示している「自然体験活動指導者養成講習会企画運営ハンドブック」には、『子供の頃の体験は人生の基盤であり、豊富な体験が、大人になってからのモラル、やる気などの「生きる力」を養成している。近年、体力低下やいじめ・自殺、不登校・ひきこもりの増加など、青少年の抱える課題が問題となっているが、これらは子供の頃の様々な体験の機会が不十分であることも要因の一つだと思われる。かつては、子供たちが様々な体験活動を行う機会が日常的にあったが、現代では、体験活動の機会を意図的に提供することが必要になっている。そのためには、正しい知識と経験を有する指導者が必要である』と明記されています。

そこで、当所では全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じた適切かつ安全に指導できる自然体験活動指導者（NEAL リーダー）を養成します。

### 2. 事業の趣旨

自然体験活動指導者認定制度のもと、自然体験活動指導者（NEAL リーダー）の資格取得に必要な講習会（概論Ⅰ）を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成する。

### 3. 事業の目標

参加者が、今後の自然体験活動の指導で実践したい具体的な内容を見つける。また、目指したい指導者の理想像を描く。

### 4. 対象 満18歳以上の者 20名

### 5. 企画・運営の留意事項

#### (1) 企画時

##### 1) 研修の構成の工夫

参加者が円滑に学べるよう「①共通の自然体験→②自然体験活動がもたらす効果の講義・実習→③リスクと隣り合わせの自然体験活動の安全管理の方法の講義・実習→④これまでの講義を踏まえて共通の自然体験の講義→⑤どのような指導をすべきか→⑥企画・運営時に重要な対象者理解の講義」と構成しました。

##### 2) 研修内容の一連性の確保

上述の研修を6名の指導者で進めました。多くの指導者が講義を行うため、参加者がす

すべての講義・演習が一連となっていることを理解できるように、指導者に事業全体のねらいを共有し、担当する講義のねらいを明確にしました。

## (2) 運営時

### 1) 導入の工夫

今回の研修には、年齢や職種の異なる14名が参加しました。一つの事象もこれまでの経験が異なれば見え方や捉え方に「ちがひ」が生まれます。本研修では、この「事象の捉え方の違い」を知ることが学びであることを参加者と確認しました。

### 2) 各講義にふりかえり（開き合い）の機会を設定

上述の学びの機会を保障するために、全員が学び合える雰囲気醸成に努めました。そのために、各講義の最後に個々の「気づいたことや考えていること」を2人1組（バディ）で話し合う場を設定しました。また、今後の指導場面においてどのように生かすかなど「日常化」について考える機会を設定しました。

## 6. 事業の実施

(1) 期 日 令和3年12月26日（日）～28日（火） 2泊3日

### (2) 講師

渡辺 直史 氏

自然体験活動の安全管理

（プラムネット株式会社アウトドア共有事業部統括リーダー）

野口 美砂子 氏（NPO法人インフイーニティー 理事長）

対象者理解

杉谷 卓也 氏（佐賀県北山少年自然の家 指導課主任）

自然体験活動の技術④

諫早自然の家 職員

上記以外の講義・実習・説明

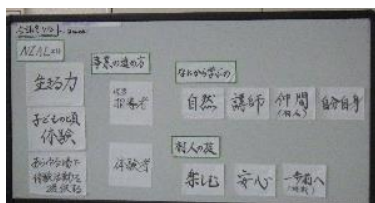
### (3) 参加者数 総計14名

職種	人数
大学生	5名
青少年教育関係者	5名
学校教育関係者	2名
その他	2名
合計	14名

### (4) プログラム

12月26日（日）	12月27日（月）	12月28日（火）
<p>&lt;第1部&gt;</p> <p>10:00 受付・開講式</p> <p>10:30 ガイダンス①</p> <p>10:50 講義・実習「自然体験活動の技術①」</p> <p>12:30 昼食（参加者持参）</p> <p>13:30 講義・実習「自然体験活動の技術②③」</p> <p>16:40 夕食（弁当）</p> <p>18:00 講義「青少年教育における体験活動」</p>	<p>7:30 朝食（パン食）</p> <p>9:00 講義・実習「自然体験活動の安全管理」</p> <p>12:10 昼食（弁当）</p> <p>&lt;第2部&gt;</p> <p>13:00 講義・実習「自然体験活動の特質」</p> <p>16:00 講義・実習「自然体験活動の技術④」</p> <p>17:40 夕食（野外炊事）</p> <p>18:20 講義「自然体験活動の指導」</p>	<p>7:00 朝食（パン食）</p> <p>片づけ</p> <p>9:30 講義「対象者理解」</p> <p>11:00 ガイダンス②</p> <p>12:00 修了試験</p> <p>12:40 閉講式</p>

## (5) 活動の様子



### 【NEAL ガイダンス①】担当：東島 憲之

導入として、NEAL とは何か、自然体験活動指導者に必要な知識・技術を学ぶために、本事業では体験者の視点で活動し、指導者の視点を持ってふりかえり、重要な内容を講師から伝えるという研修の進め方について確認しました。



### 【講義・実習】「自然体験活動の技術①」担当：園部 翔

学び合う雰囲気大切にするために、緊張をほぐせるようお互いを知り合える活動が重要であることを自身の体験と講義にて説明しました。

初めから全体で話すことは難しいため、少人数での話し合いから最後は全体で話し合う活動構成にしました。



### 【講義・実習】「自然体験活動の技術②③」担当：園部 翔

自然体験活動の多くは、協働することの大切さを学ぶ機会になります。そのような活動を提供する上で、指導者自身が「協力することや挑戦することの大切さを再認識する」ことをねらいに「岩場のぼり」を行いました。

また、リスクと教育効果が比例することについて参加者に体感してもらうために、やや難易度の高いコースを選択しました。

活動後のふりかえりでは、岩場のぼり（自然体験活動）で気づいたことを、KJ法を活用して共有しました。



### 【講義】「青少年教育における体験活動」担当：蓮見 直子

岩場のぼりのふりかえりでは、参加者は特に自然体験活動の魅力について話し合っていました。そこで、「なぜ青少年教育で体験活動を行う機会を提供するのか」について講義を行いました。

その際、参加者同士のこれまでの経験と講義内容がつながるよう「よい体験とはどのような体験か」などについて話し合う場を多く設定しました。



### 【講義・実習】「自然体験活動の特質」

渡辺 直史氏によるオンラインで、「①自然体験活動の意義」と「② 参加者の地域の特質」の講義・実習を行いました。

①では、渡辺氏が企画・運営されていた「アラスカキャンプ」の進め方や参加者の様子、キャンプ後の変化などについてお話をいただきました。

②では、参加者が自身の地域で自然体験活動の機会提供の企画をする活動を通して、地域の特質について考えました。



**【講義・実習】「自然体験活動の安全管理」**

引き続き、渡辺 氏にお話をいただきました。

参加者は、(1) から (5) の講義・実習で自然体験活動や体験活動の意義を学びました。よい活動にするためには安全に活動できることが最重要であるため、この講義・実習では、「リスクをどのようにマネジメントしていくか」を学びました。



**【講義・実習】「自然体験活動の技術④」**

講師として、杉谷 卓也氏をお招きしました。

これまでの講義を踏まえた自然体験活動として「野外炊事」を行いました。

活動中は、参加者としての目線と支援者としての目線で活動することを通して、自身がどのような支援を行っていきたいかを考える機会にしました。



**【講義】「自然体験活動の指導」担当：園部 翔**

支援者として指導する際に、どのような心構えで支援に入るかを参加者で話し合いました。

指導の際、参加者は指導者の姿をお手本として見るため、言動や服装に気掛けることなどを確認しました。また、話し声の強弱や話す内容の可視化などを学びました。



**【講義】「対象者理解」**

講師として野口 美砂子氏をお招きしました。

安全管理の徹底や教育効果を高めるための重要な要素である「対象者理解」を本研修最後の講義に構成しました。

対象者理解の必要性や方法、各年齢期における発達課題があることなどを御講義いただきました。



**「NEAL ガイダンス②」担当：東島 憲之**

NEAL リーダーの資格取得に必要な手続きや、今後上位資格を取得するための演習について説明しました。

**7. 評価**

**(1) アンケート結果**

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

**(2) 参加者の声**

- ・雪の中の活動という決して恵まれたコンディションとはいえなくても実施していただけたことで、より一つ一つの活動内容、ちいさなチャレンジの積み重ねにも集中が

できたし、なにより「自然体験活動」における事前準備の必要性やさまざまなシュミレーション、即応性やリスクマネジメント、指導者や援助者、参加者それぞれのチーム意識の大切さなども初日から実感できたのがよかったです。

- ・初日に参加者としての「体感」からスタートしたことで、一つ一つの講義の理解が深まり、指導者目線、参加者目線、送り出す家族目線などいろんな立場で聴くことができました。
- ・講義内容の区切りがつくごとに、振り返りやまとめ、意見交換の時間があったのがとてもよかったです。(頭の中では整理しきれないことを言語化できたり、感じ方捉え方の違いを感じたりできたので) 内容についても為になる話ばかりで、自分の課題やするべきことが明確になりました。
- ・リスクについて、事例を交えながらお話し頂いたので、とてもわかりやすく勉強になりました。またアラスカのキャンプのお話は、「特別な体験」で終わらず、自然体験活動を企画していくうえでの気づきになりました。
- ・命に関わる3つの視点や脊髄損傷の具体例などをお示しいただいたことは、これまでも救命救急講習にはない鬼気迫るものでもあり、指導者としてもっとしっかりリスクマネジメントの知識や技術を身につけたいと思えました。
- ・私は自然体験活動において知識や思考力の発達を期待できると思っていたが、知識が多くても感情が豊かでないで将来起き上がれない人になってしまうとわかりました。感情が動く体験とは何かを考えていきたいです。

## 7. 成果と課題

### (1) 成果

参加が決定した対象者と連絡をとり、気になる点をよく確認した上で、講師と連絡を密にとり、優れた講師の方々の実体験や、参加者が研修中に体験して気づいた内容を踏まえた御講義、研修の構成や導入、ふりかえり等での言動の工夫をしたことで、参加者の満足度は全て最上位評価でした。参加者のアンケートや感想にも「一つひとつの活動のつながりがあり、学びやすかった」「指導者からだけでなく参加者同士で学び合える研修が良かった。」などが多くありました。

### (2) 課題

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、昨年度に比べ、NEAL インストラクターの資格取得に必要な演習を実施された方が減少しました。次のステップを目指して演習を受ける方を確保していけるよう、NEAL 演習を受け入れられる事業の広報に努めていきたいです。

### (3) 今後の展望

本事業での講師に対する参加者の満足度は、実体験をもとにした具体的な内容のため、理解しやすいと、一様に高かったです。当所では本研修を実施するのが再来年度に予定されている状況です。次回もご講義いただけるよう、当所では指導者養成事業や職員研修を実施する予定なので、講師の方々と連絡を密にとっていきたいです。